



三条北ロータリークラブ週報

ENJOY ROTARY!

ロータリーを楽しもう!

国際ロータリー会長 ヒュー M. アーチャー 第256地区ガバナー 吉野一郎

例会日

1989. 11 . 28

累計 No 149

当年 No 20

会長/平松利朗

幹事/稲田憲治

SAA/笹原勝治

例会日/火曜日 PM12:30~1:30

例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111

事務局/三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160

行事: 米山奨学・ロータリー財団合同記念卓話 藤田説量パストガバナー

出席: 本日の出席 48名中35名

先週の出席率 48名中41名 85.42%

先週のメークアップ: 11月23日 新潟南RC30周年へ 河井増雄君 本間建雄美君 中條耕二君

11月27日 三条南RCへ 落合益夫君

ビジター: 11月14日 燕RCより 五十嵐莊一君

三条RCより 松谷晃吉君 堀川政雄君 大谷幸平君

三条南RCより 葦沢喜一郎君 弥久保藤雄君

ゲスト: 藤田説量パストガバナー

オブザーバー: 石月雅司様

会長挨拶: 今井副会長

平松会長がお休みですのでピンチヒッターで御挨拶申し上げます。毎週例会毎に当然会長挨拶を聞いている訳ですが、自分が担当するとなると、細かいところがハッキリとしません。ゴングをならす前に軽く頭を下げるんだっただろうか? 平松会長は何時もどうされていたのだろうか? 第一壇上へあがる前に国旗とロータリー旗に頭を下げてから登壇する訳ですが、どの程度おじぎをすれば良いのかな……? 等、他の人からすれば他愛のない事ですが、気の小さい私にとっては大問題です。1番の難問はゴングです。もし上がってしまっても空振りでもしたら懲罰物です。ゴルフのスイングのように2~3回、素振りをしてからという訳にもいきません。まことに頼りないピンチヒッターで申し訳なし。さて、本日は藤田パストガバナーのお話を久し振りにお聞きできます。先週も平松会長がおっしゃっていましたが、先日の吉田クラブとの合同例会時には、榎内パストガバナーの御自分の人生経験に基づくすばらしい卓話でした。その榎内パストガバナーが、“自分は藤田先生程、高度な話ではできません……”とおっしゃってました。その藤田パストガバナーのお話を又、又今日、拝聴できる訳です。ロータリーのメンバーになった御蔭です。思い出しますと3年

算というものは、それ程大きいものではない。むしろ各メンバーがそれぞれの職域に於て、社会に奉仕する姿勢をお互に考え合い学び合っていくところに意味がある。ですから私はロータリーは社会奉仕を考え合う、学び合うクラブであるというふうに言った方が適切な表現ではないかとさえ思うのでありますが……。お互がそういうふうに社会奉仕をする。なぜ社会奉仕をするか、先程読みました23-34には本当の意味の幸福とは、そういう所で会得されるのだ、という説明がございしますが、私はこれは人間の自浄作用だと思います。妙な言い方ですけど、自らを励まし、自らを清くして行く、まあいい意味のカタルシスと言いますか自分の現在を少しでも前へ進めるか、高く進めるか判りませんが。自分の持っている美意識を少しでも実現する為の努力の表現。私はかつて社会奉仕とは自分のチャレンジ精神だという事を申しした事もございますけれども。そこに一つの自分のなんて言いますかですから余った金を出すのが社会奉仕ではないという事を私は申し上げたい。自分では大切な金であり、この金を出すともっと自分個人の使い方としては必要な場面がたくさんあるけれども、あえてチャレンジして社会の為に使っていく。そういう事が社会奉仕の考え方だと思います。色々な考え方があります。実例をあまり引きますと耳の痛い事を言う事になりますのであまり言いませんけれど、私達が社会奉仕だと言っている事が、本当の意味の社会奉仕かどうかと言うことがあまり確信を持って言えない。と言う事だけを申し上げるのであります。そして先程申しましたように私たちがこの人生に於て美しさというのを自分の生涯を掛けて表現をするならば、何をしたら良いか。自分の脱皮を考えたり、自分を推し進めるものと考えたりするならば相当の危険を犯し冒険を犯して行かなければならない。そういうものが私は奉仕だと思うのであります。人間の美しさというのは色々ございますけれども、私は物の姿の美しさ、そういう物と、人間が表現する美しさというものは全く違う次元にあるという事を考えております。どういう事かと言うと物の美しさというのは汚い物を除外して綺麗な物を作り上げて行けばそれは物の美しさでありますけれども、人間の美しさというのは力あり能力があり社会の為に役立つこの人間の美しさは決して他を切り捨てる美しさではない。他を包容する、汚い者もあるかも知れないし、劣った者もあるかも知れないし、役に立たない者もあるかも知れない。しかし人間にはその与えられた生命に対しては生きる権利がある事を認めて、そういう者を包含した暖かさ、大きさ、豊かさそういう者の中に自分が、自分の力の中に包含しながら自分の美しさを表現するのが、本来の人間の美しさだと思うのであります。先程会長さんの挨拶の中にもありましたけれども、小錦の涙が非常に美しい、あの小錦の涙が美しいというのを私も考えました。それはなぜ美しいかと言うと、言葉も判らない外国に来て股開をされて、涙をこぼしながらやった苦勞がむくわれた、その苦しいところを乗り越えて来た、その感激が涙に成ったものだろうし、たゞ身体が大きいだけで相撲が強く勝ってポンポンと優勝したのであればその感激は無いであろうし、それを見ても日本人は小錦に対する好意を持たなかったかも知れません。彼の苦勞を知っているから彼の苦勞を認めて、優勝した者の涙として認識したのだと思います。私達の社会奉仕というのもそういう一つのチャレンジであり、苦勞を乗り越えて感激も沸いて来ますし、世の中の色々難しいこの役に立たないものがあくさんある。その役に立たないはずのものを役立たせ救い上げて行くというか、一緒に自分の世界に導いて自分もそれによって、学びながら一つのものを作り上げて行く。そういう所に人間の美しさというものがあると言うふうに平素考えておる者でございます。社会奉仕に致しましても、米山奨学に致しましてもロータリー財団に致しましてもそういう趣旨から、お勧めをしたい、と考える者でございます。

12月5日例会: 年次総会

12月12日例会: 卓話「ファミリーいっしょに!」堀川正幸君

前、北クラブ発足時に初めて藤田説量ガバナーの名前を耳にして、ガバナーというのは1番偉い方だと、先輩から教わりました。その時、先礼ながらも「説量」とは、何とも固い名前だなあー。お坊さんのような名前だというのが第1印象でしたが、まさか本職でいらっちゃったとは……。

幹事報告： 稲田幹事

◇第81回国際ロータリー年次大会のご案内

日時 1990年6月22日～27日 会場 米国オレゴン州ポートランド

◇新潟南RC創立30周年記念式典参加御礼が参っています。

ニコニコボックス：

今井克義君 出雲崎での月例、久しぶりにパープレイで回りました。先日、提案したゲートボール同好会設立の件はとり下げます。来年もゴルフを頑張ります。

坂内康男君 石月さんの入会を願って

山口龍二君 久しぶりのホームクラブ。久しぶりの上海市民の様子変りなし、観光客は少しふえた様子、しかし天安門事件以前の2割程度。ホテルは見栄で電気をつけている所もあるとか……。仕事については、外貨不足のため相当気をつけた対応でした。

堀川正幸君 藤田先生の卓話のお礼に、／

小林満君 オブザーバーの石月雅司さんを歓迎して。

白崎哲夫君
本間建雄美君
内藤修君 お客人、石月さんを歓迎して。

江口悟君 日曜日に大新潟でクラブチャンピオンの鈴木さんとプレーしました。彼はパープレイ、私は……。／いい勉強になりました。

加藤実君 留学をしてましたので久しぶりの出席です。

米山奨学：

- 中條耕二君 1.ロータリー財団月間に^{チナ}因んで
2.藤田パスガバナーの記念卓話に感謝して、
3.御陰様で当社新潟東港工場一期工事完成。会員の米山さんに感謝して。

山口龍二君

淵岡茂君 早川さんに協力。

佐藤茂英君 早川さんに協力

米山忠俊君 早川さんに協力して。

早川滝雄君 ・パストガバナーの藤田様本日の卓話よろしくお願ひ致します。
・石月君を歓迎して。

為に入って来る者が多いけれども、本当に勉強をしようとする人は、日本の生活費が高い為に、日本を敬遠して、オーストラリアや、ニュージーランドに行く傾向が強いとさえ言われています。日本が今、本当の意味で日本を知って頂く将来の色々な国の指導者に対して、日本を理解させるチャンスを作る意味で、米山奨学は非常に効率的で効果のある使われ方をしているものだと思います。私の知人が上海から新潟に来ている子供の面倒を見ているのを見ていましたので、ロータリーの米山奨学を受けるように、ロータリアンに話して見なさいとお勧めを致しました。三条の方には米山奨学の利用というのはあまりありませんけれども、今迄中国はロータリーがないので除外されておったのであります。かってあった国のメンバーとしてこれを受け入れるという事が決まったようであります。今迄はロータリーそのクラブ独自で米山奨学金と同じような制度を設けて、運営していたクラブがございましたけれど、今度は晴れて、米山奨学金の対象者として、中国の者も1人は認めるという事に成ったようです。そういうお互い外国の子供達が日本に来たチャンスに日本を良く理解させる努力をしなければ、かって日本が東洋の盟主だと言われて少しのぼせ上って、戦争をしましたけれど、しかし私は、戦争を謳歌する者ではございませんが、あの時の日本人は東洋の盟主として責任を感じて、色々良い事もたくさんやったと思います。しかし、戦後はそういう姿勢を放棄して、経済的な中心点ではあるが東洋の盟主ではないとするならば誠に残念な事であります。やはり日本は現在の力を持って面倒さを見てゆかなければならない。私は中国が日本に対して賠償金を請求しないという事に甘えるだけではこの戦争を反省したことにはならないといえふように考えております。やはりそれに対して日本人が努力致しまして、中国に対して韓国に対しても、あるいは戦争によって迷惑を掛けているかも知れないそういうものを払拭する為には、それなりに努力をして歴史的に証明をしなければならぬとするならば、現在たくさん来ていますボートピープルに致しましても、不法入国してしまして、アルバイトをしている者に対しましても、血あり涙もあるという。同じ受け入れられないから本国に送り返すというなら、送り返すにも送り返しようがある。そこに日本を理解させる努力があって、初めて日本が理解されるのではないか。ロータリーがなぜボートピープルに対して、声を上げないのかという事が、私の考えている不思議の一つであります。やはりそういう事に対してもロータリーというものは考えて行くべき私はものでまいかなと思うのであります。米山に致しましても、ロータリー財団に致しましてもスピーチの結論は何かと申しますと、一人でも多くのフェローを作り、米山功労者を作るという事がスピーチの最後の纏であるはずでございますので、私もその例にならしましてお願いを致す訳でございますが、会長幹事経験者は必ずボールハリスフェロー、あるいは準であっても何であっても良いのですが将来のフェローを志して頂く事。米山は少し高いんですが、10年計画でそれをして頂く成らばそう大きい負担ではないと思います。特に群馬県と新潟県を比べますと、そう言う大変お叱りを受けると思いますが、雲泥の差でございまして群馬県の方がはるかにこの点の協力姿勢は厚いのであります。新潟県で大きなクラブは相当の協力をしておりますけれども小さいクラブでも協力しているクラブがある。そういうクラブに対しては私は心から敬意を表するものでございますが、新潟県全体がもう少し奮起してフェローを増し、米山功労者を増して行く姿勢、そういうのがなければロータリーが本当の意味の社会奉仕の団体であるといえ意味が薄いのではないか。私は社会奉仕の団体だとは考えておりません。という事を言うとパストガバナーが言ったと言ってお叱りを受けるかもしれませんが、社会奉仕の団体であるならば、まだ予算の並べ方が違うと思うんですよ。社会奉仕に対する予